

『安全の見える化』について

自主的な安全衛生活動として、「安全の見える化」の普及に努めていきたいと思っております。
「安全の見える化」は、現場にひそむ危険を写真などにより、目に見える形にすることによって効果的に安全活動を展開する取組です。

「安全の見える化」の「安全」については、労働災害を防止するためのハード面（建設機械、動力・運搬機、仮設物等）とソフト面（安全衛生管理体制、安全衛生教育、安全衛生活動等）の両面を含んでいます。また、「見える化」という言葉は、「見える（ようにする）」、「なかなか見えないものを容易に見せるようにする」という意味です。

私たちは日常生活や仕事において、人間は五感から外部情報を入手します。
その五感から情報をつかむ割合は、目（視覚）は83%、耳（聴覚）11%、皮膚（触覚）3%、舌（味覚）2%、鼻（嗅覚）1%と言われており、目（視覚）からの情報把握が大半を占めていると言われております。

「気づき」から「考動」へ

現場において、様々な安全を「見える化」することにより、視覚から飛び込んでくる「見える」ことがきっかけとなって、心の中に「気づき」が生まれ、見える前とは異なる「思考」や「対話」そして「行動」が生み出され、より安全を優先させる意識や行動が高まるものと考えます。
これからの安全は受身ではなく、作業員自らが進んで考えて行動することにより「気づき」から「考動」へと変化することが求められます。

日頃取組んでいる安全活動を「見える化」することにより、作業員の安全意識が高まり、また他の監督者・指揮者からも安全な作業の遂行状況が明確になることと思っております。